種名	ヒ　シ　ク　イ Anser fabalis
分類	ガンカモ目　ガンカモ科
特徴	くちばしの先に橙色の模様がある大形のガン類。ユーラシア大陸から寒帯で広く繁殖し、日本には冬鳥として渡来し、北日本から日本海側の限られた池や沼に棲息する。日本に渡来するヒシクイ類には、寒帯のツンドラ地帯で繁殖し、くちばしが太くて短いヒシクイと、亜寒帯の針葉樹林帯で繁殖し、くちばしが薄くて長いオオヒシクイという2つの亜種がある。
生活	越冬地の習性はマガンと同様で、常に数十羽から数百羽の群れで行動し、昼間は安全な池や沼の水面に浮かんだり、氷上に岸辺に立って休息することが多い。早朝などに、広い水田地帯や湿地の地上を歩きながら草の実を食べる。その名の通りヒシの実も好む。安全な環境であれば、昼間も採餌する。
声	マガンと混群を作っていることもあるが、マガンに比べて声が太く、少し鼻にかかった「グゥハングゥハン」と聞こえる声で鳴くので区別できる。また飛び立ったときには盛んに鳴き交わし、飛翔中にも鳴き交わしていることが多い。
見分け方	マガンより一回り大きく、くちばしが黒く先に橙色の部分があり、脚も橙色。
時期	（月）　1　2　3　4　－　－　－　－　－　10　11　12
その他	全長（L）83cm　翼開長（W）160cm
	参考文献：山渓カラー名鑑　日本の野鳥